8月13日　竹昌宣さんの祝詞でお盆参りを行う

大牟田 荒尾 与論会だより

発行所
大牟田・荒尾地区与論会
発行人・朝岡光男
TEL　0944-56-7510

第131号

令和3年「秋季大祭中止」のお知らせ

今年の秋季大祭は新型コロナウイルス感染者が全国で2万人を超え、有明地域においても32人の感染が確認。感染力の強いデルタ株などへの、さらなる警戒が求められていることなどを考慮して中止とします。年内にはワクチン接種が行き渡り、来年春にはコロナウイルスが終息していることを願っております。

なを、神事は役員のみで行いますので、ご理解とご了承をお願いします。

当日、奥都城は開放しますので、お参りは各自、自由です。時間は左記の通りです。

開館時間

一、日　時　9月19日（日）午前10時～12時

注意事項

一、『検温』『消毒』を実施。必ず『マスク着用』。

一、奥都城内は三密にならない様お願いします

今回は特別付録付きＤＶＤ無料配布

大牟田・荒尾地区与論会関係各位

ヨロン島ＰＲ動画ＤＶＤの配布について（特別付録）

残暑の候、新型コロナウイルスの感染拡大が止まらず不要の外出自粛が要請されているなか、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回、与論町商工観光課様から、観光ＰＲ動画が送付してまいりました。与論島の海や砂浜、国の重要無形民俗文化財の与論十五夜踊りなどを、ドローンなどを駆使した美しい映像で紹介されています。「９作品収録」

また、観光地のＰＲ映像など集めた国際的なコンテストで、与論島の美しい自然や伝統の祭を撮影した作品が最優秀賞に選ばれました。このコンテストは、毎年ドイツで開催されている観光業者向けの国際会議に合わせて開かれているもので、今年は世界23か国から１２１作品が出展されました。

このうち、地方の観光ＰＲ映像の部門で、与論島の映像が最優秀賞に選ばれました『５番目』。日本で選ばれたのは与論島だけで、是非、皆様方にも見ていただく特別付録無料提供する次第です。コロナ過が終息した時、先祖が生まれ育んだ美しい与論島を家族で故郷探求、友人仲間等で与論島を観光されてはいかがでしょうか。

まだまだ新型コロナウイルスの感染拡大が止まりませんが、くれぐれもご健康にはお気をつけてください。

大牟田・荒尾与論会
会長　朝岡　光男

最優秀賞に選ばれた映像（[Digest]Welcome to Paradise-YORON Island, Japan）

与論島の海や砂浜、そして国の重要無形民俗文化財の与論十五夜踊りなどを、
ドローンなどを駆使した美しい映像で紹介しています。

大牟田・荒尾与論会 会長　朝岡 光男 様

与論町観光ＰＲ動画ＵＳＢの送付について

陽春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は与論町に対して格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、与論町商工観光課では、２０１８年から観光ＰＲ動画を制作し、動画配信サービス「ＹｏｕＴｕｂｅ」にて動画配信を行っております。今回、２０１８年度から２０２０年度までに商工観光課が発注し、制作しました動画をＵＳＢファイルに保存し、貴殿宛に送付いたしました。総会や店舗、事務所などで動画を自由にご活用いただければと存じます。

本来であれば直接持参し、ご説明申し上げるところですが、新型コロナウイルスの影響により、こういった形でのお渡しとなってしまい、申し訳ございません。

まだまだ新型コロナウイルスの感染拡大が止まりませんが、くれぐれもご健康にはお気を付けてください。

与論町長　山　元　宗

与論会の動き

自　令和３年４月
至　令和３年８月

４月４日　奥都城春季大祭中止　役員のみ参拝
　新型コロナ対策の上開放
５月９日　奥都城清掃６・15・16地区担当　ペンキ塗り
　23日　奥都城テント枠ペンキ塗り
６月13日　奥都城清掃４・10・11地区担当
７月４日　第45回大牟田・荒尾地区与論会定期総会
　新型コロナの関係で時間短縮　三港与洲会館
７月18日　奥都城清掃13・14地区担当
８月８日　奥都城清掃　17・18・19地区担当
　13日　奥都城お盆10時～12時
　新型コロナ対策の上開放　約１００名お参り

▼次の方がお亡くなりになりました（敬称省略）
　謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます

月日	氏名	年齢	喪主	住所
7月28日	沖　満廣	86歳	沖　徳江	荒尾市川登１９０７－９９

懐かしい写真・募集してます

懐かしい写真や古い写真、資料などお持ちの方はお知らせください。デジカメに収めて与論会で記録しておきます。
資料や写真はお借りしません、その場で撮影して資料として保管します。お知らせ頂ければお伺いします。

連絡先　大牟田・荒尾地区与論会
会長　朝岡　光男　０９０－３６６６－５２５５　まで

荒尾市川登在住の山下ウトさんが１００歳の祝いを、荒尾市長から祝福いただきました。４月27日生まれです。
与論島出身で、ふるさとの歌が大好き。妹と会うと今でも楽しく踊りながら過ごします。手先が器用で、伝統工芸品の大島紬も織っていました。ご家族は「ふるさと与論が大好きな、かわいいばあちゃんです」。と話しました。

春季大祭

４月４日に春季大祭を行う予定にしておりましたが、新型コロナ特別警戒中の為、大祭を中止して神事のみを行いました。当日雨天の為、奥都城内で行い、駛馬天満宮の田尻神官の祝詞奏上後、役員とお客と、お参り致しました。

奥都城は10時から解放しておりましたので、一般客も一緒にお参りをしていただき、コロナ対策も徹底し、密を避けながらご先祖の挨拶も早々に奥都城を後にしていただきました。

春季大祭奥都城内写真集

令和３年　春季大祭

令和３年　春季大祭

令和３年　春季大祭

第45回与論会総会

7月4日午前10時より与論会の総会を開催。コロナ対策として消毒を徹底して行われました。今年度は役員の改選期にあたり以下の役員で決まりましたのでお知らせします。総会の内容は紙面にてお知らせします。

今年度は新型コロナで行事が中止になり、支出がなく昨年の赤字が一掃することができました。来年度は各種行事が行われることを願っております。

総会は執行部の提案通りに満場一致で決まりました。

地区長	
地区名	お名前
1地区	野中トモ子
2地区	竹　昌宣
3地区	仲野光浩
4地区	馬場武彦
5地区	山下義明
6地区	松井清一
7地区	黒田　豊
8地区	—
9地区	川上英子
10地区	野口裕志
11地区	—
12地区	黒田　豊
13地区	竹内隆雄
14地区	森　整昭
15地区	村山章彦
16地区	川口幸雄
17地区	野口　隆
18地区	竹内征夫
19地区	山元信幸
20地区	酒匂登志明

役職	役員
会長	朝岡光男
副会長	出村　進
〃	益山憲一
〃	砂川真佐江
幹事長	先　章太郎
会計長	出村　進
幹事	梅花孝祐
〃	森　整昭
〃	益山哲夫
〃	川口幸雄
〃	黒田　豊
〃	竹　昌宣
〃	村山章彦
青年部長	仲野英富
青年部	川上喜一郎
相談役	町　謙二
監査	森　光廣
〃	森　亮子

大牟田・荒尾地区与論会　令和２年度決算書

（収入）　令和２年６月～令和３年５月

費目	予算	決算	内容
繰越金	−41,986	−41,986	前年度繰越金
与論会年会費	1,300,000	1,205,212	与論会年会費
寄付金	200,000	96,000	別紙参照
貯金利子	100	8	郵貯金利息
雑収入	10,000	39,500	購読料（38,000）・義援金（1,500）
合計	1,468,114	1,298,734	

（支出）

費目	予算	決算	内容
会議費	50,000	49,733	総会費用
祭典費	250,000	131,844	春・秋大祭は役員のみで執り行う・正月・お盆
共済費	100,000	30,000	高橋東蔵様の弟・奥家様・山田富雄様の妹主人
渉外費	300,000	13,143	駛馬天満宮春秋例祭・林竹美著書本５冊購入代
機関紙費	300,000	324,500	与論会だより発行（年３回発行）
事務通信費	80,000	104,244	与論会だより郵送、事務用品、文具代
奥都城維持費	50,000	95,429	電気、水道、テント塗装工事(役員総出)
与洲会館費	50,000	38,704	電気、水道、
公園使用料	65,000	63,558	奥都城借地代
清掃費	50,000	37,522	奥都城清掃茶菓子代
役員研修費	100,000	0	
青年部費	0	0	
故郷芸能継承費	0	0	
備品費	0	19,800	チエンソー購入
予備費	73,114	390,257	次期繰越金
合計	1,468,114	1,298,734	

令和2年度奥都城建設資金報告

(収入)

前期繰越金	16,824,450	適　用
建設資金	1,200,000	松井寛樹様・川上美智子様入会
利子	715	郵便・信金
雑収入	300,000	奥家永代供養料
合計	18,325,165	

(支出)

修繕費	0	
設備費	0	
備品費	0	
雑費	100	送金手数料
合計	100	

収入	―	支出	＝	建設資金残高
18,325,165		100		18,325,065

令和２年度寄贈者名（敬称省略）

令和２年６月１日～令和３年５月31日

金銭寄贈者名		
月　日	金　額	お名前
８月13日	3,000	堀泰博
９月20日	5,000	㈲山運
１月３日	50,000	上様
	3,000	堀泰博
４月４日	10,000	川口哲治
	5,000	㈲山運
	5,000	仲野装業
	5,000	猿渡恵一郎
	3,000	叶生二
	3,000	嵐山清次
	2,000	黒田ノブ子
	2,000	山田富雄
	96,000	

物品寄贈者名				
月　日	お名前	品物	数量	
８月16日	佐藤	清酒	１本	納骨の為
	東	清酒	１本	納骨の為
９月20日	㈲仲野装業	有泉	２本	
１月３日	白雲社	コーヒーセット	１箱	
	仲野装業	有泉	１本	
	山元信幸	焼酎	１本	
４月４日	白雲社	清酒	２本	
	境サエ子	清酒	１本	

会計監査報告

2020年度(令和２年度)歳入・歳出の決算は、関係書類(預金通帳、現金出納簿、領収証等)により、照合検査を行った結果、適正な事務処理がなされており、決算の内容については相違ないことを認めます。

与論会現金及び預金	３９万０２５７円
奥都城建設剰余金	１８３２万５０６５円

内訳	新規入会	松井　寛樹 様	玉名市岱明町上
		川上美智子 様	玉名郡長洲町腹赤
	永代供養	奥家 永代供養	

令和３年　６月　13日

監査　森　光廣　印

監査　森　亮子　印

令和３年度予算書

（収入）　令和３年６月～令和４年５月

費目	予算	内容
繰越金	390,257	前年度繰越金
与論会年会費	1,200,000	与論会年会費
寄付金	100,000	大祭が行われることを祈ります
貯金利子	100	郵貯金利息
雑収入	10,000	購読料
合計	1,700,357	

（支出）

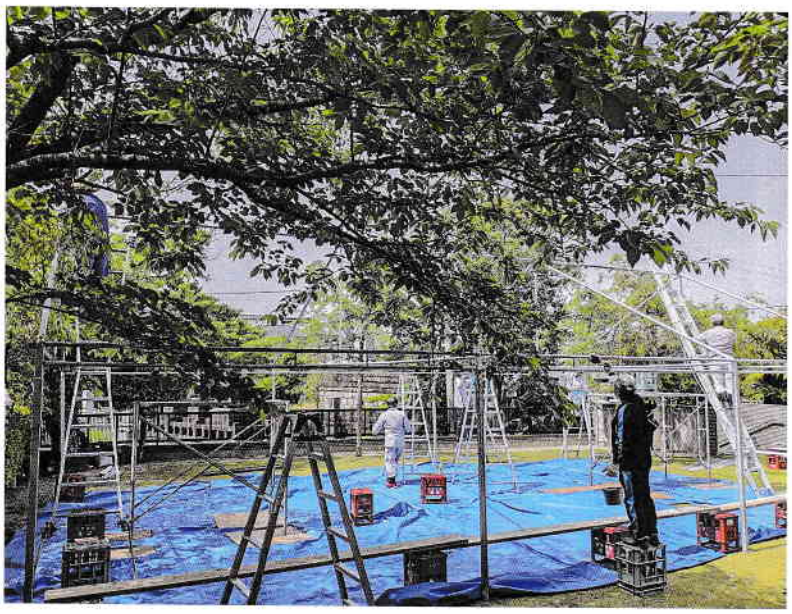
費目	予算	内容
会議費	50,000	各種会議
祭典費	250,000	新年・春・夏・秋 祭典
共済費	50,000	会員慶弔費
渉外費	200,000	各種行事
機関紙費	350,000	与論会だより発行（年３回発行）
事務通信費	100,000	与論会だより郵送・事務文具代他
奥都城維持費	100,000	電気、水道他維持費
与洲会館費	50,000	電気、水道他維持費
公園使用料	65,000	奥都城借地代
清掃費	50,000	奥都城清掃茶菓子代
役員研修費	100,000	役員慰労会
青年部費	0	
故郷芸能継承費	0	
備品費	0	
予備費	335,357	
合計	1,700,357	

塗装工事を完工

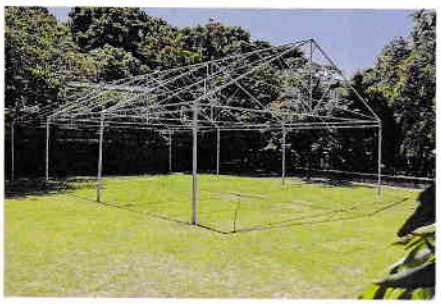
５月９日と23日に役員と当番地区とで奥都城前広場に設置している大型テントの塗装を行いました。

鉄骨枠が雨ざらしになって、錆が浮いてきており、塗り時の時期を迎えたので清掃担当地区と合同で、翌々週に役員のみで工事を完了しました。

行事の折には、見てやってください。手塗りで厚く塗っておりますので耐久性はあります。



大型テントの鉄枠　ペンキ塗り



奥都城台所を補強

６月の清掃日に、奥都城の台所窓枠がバールで捏ねた後を見つけました。調べたら防犯用のライトと照明が配線を切断されていて、扉も捏ねた跡がありました。

２年前には、枠そのものが変形するほど捏ねられ、警察に届け、保険の適用になり窓枠を取り替えましたが、また、狙われたので、窓と扉を囲う枠を取り付けることにしました。配線も露出部分は少なくしております。

（前回も、今回も被害はありませんでした）

賽銭泥棒が横行しておりますので、かねてより警戒管理が重要です。皆さんも奥都城を通行の折には注意をお願いします。

以前の台所

枠を取り付けた台所

お盆参りを8月13日に行いました。

当日は、本州付近に停滞する前線が活発化した影響で、西日本を中心に局地的に猛烈な雨が降り続く中で、奥都城のお盆参りを行いました。

雨が降り続く中、検温・消毒・マスク着用で、三密回避でお願いしました。

式典は奥都城の室内で行われ、役員の竹昌宣さんの祝詞で神事を行い、会長挨拶で式典終了。役員を加算すると１００名以上の皆さんがお見えになりました。

ボーヤチャンの店

下川　博子

みなさん、お久しぶりです。新港町の売店の前で、祖母と妹、弟と露天の駄菓子屋をしていた上野博子です。

私達４人は、この店のささやかな収入を頼りにソ連兵に連れていかれたまま、消息の分からない父の帰りを待っていました。

あの頃から70余年。私は85歳になりました。

私は今までたくさんの人に出会ってきましたが、なかでも新港町の人々、そのなかでもユンヌンチュから優しくしてもらったことは、忘れることはできません。やがて、（終戦の日）がきます。

１９４５年８月15日は、私たち家族にとっても苦難の始まりの日でした。

暗転の日、十月六日

終戦時41歳　上野　正夫

昭和二十年一月三日、わたしは家族を連れて新京神社にお参りした。おみくじは大凶と出た。よくないことが起こりそうな予感がした。

当時、わたしは満州国の対ソ外交を担当していた。敗戦が不可避なことは昭和19年後半から取りざたされていた。妻は２年越しの肺結核で病床に伏していた。上司から家族を日本へ帰すようにとの勧告を受けたが、満州で運命をともにすることに決めた。

戦局は予想通りに推移した。終戦日の８月15日を新京（現在の長春）で迎える。公私の身辺整理をして新京郊外・氷昌胡同の空

除幕された記念碑前にて上野正夫氏・妻静子氏、長男上野勝矢氏
〈上野應介翁彰徳碑（左）と口之津移住開拓民の碑（右）〉

き家に引きこもる。ソ連の検察当局は日満の要人狩りを始めた。わたしも職掌柄ねらわれることはわかっていたが病妻と三人の子ども、老母を置き去りにして逃亡するわけにはいかない。

昭和20年10月6日は雲一つない小春日和だった。楡の本の葉が微風に舞い、垣根沿いのコスモスの花が静かに揺れている。午前中、大通りの物々交換市場でサツマイモを手に入れた。午後、老母は庭で越冬用のたどんを作っている。わたしは庭の真ん中にかまどをこしらえてイモのてんぷらを揚げていた。子どもらは周りでキャッキャッとはしゃぎながらご馳走の出来るのを待っている。妻は縁側へはい出てきて、気分よさそうに外を眺めている。みんなが奈落の渕に立っているとは知る由もない一家和楽のひとときだった。

午後一時半ごろ、同僚の奥さんが垣根越しに声をかけた。時候のあいさつやちまたのうわさ話を長々としゃべってから最後にこう言った。

「ソ連の兵隊さんが主人を捕まえに来ました。留守だと答えたら外交部の要人の所へ案内しろと拳銃を突きつけて脅かすむのですから連れてきました。しかたがなかったのです。ごめんなさい」

奥さんのおしゃべりが終らないうちにソ連兵の一隊はわたしの家を包囲した。黒地の肩章を着けた少佐が近寄ってきて尋問する。

「君は上野正夫だね。捜し出すのに苦労したぞ。今から家宅捜索を行なう。逃げ出したら射つ。家族も同じだ」

五人の者が泥靴のまま家の中へ入り込み、家財道具やわたしの持ち物を引っかき回した。畳を上げて床下まで調べる。捜索は1時間ほど行われた。目当ての物は出なかったようだ。家の中は一転して火事場のような騒ぎになった。

子どもらは泣き叫ぶ。妻は起き上がって、うちの主人は悪いことをするような人ではありません、と必死になって訴えている。母は闖入者をにらみつけて、出て行きなさい、とどなっている。少佐が改まった口調で言い放つ。

「君を逮捕する。携行品を準備しろ」

わたしはシベリアへ送られるものと思い、冬着や冬期用品をトラックに詰め込んだ。妻は流れる涙を拭きもしないで震える手で手伝った。わたしは少佐に言った。

「逃げも隠れもしない。子どもの前で手錠や縄を掛けるまねだけはしないでほしい。」子どもらは、行っちゃぁ嫌っと泣き叫びながらわたしに取りすがった。わたしは一人一人の頭をなでながらなだめた。

「じきに帰ってくる。仲よくして待っていなさい」

自動小銃を突き付けられて庭へ出た。かまどには残り火がくすぶっている。てんぷらが散乱している。正月、新京神社で引いたおみくじの大凶が頭の中をかすめた。玄関前の通りでは近所の人々が遠巻きにして見物している。髪を短く切り、顔にススを塗った若い女性や三日前に主人を連れ去られた顔見知りの奥さんも交じっている。

妻はかすりの着物をはおり、三歳の勝矢を背負って出てきた。

「主人を早く帰してください」

日本語のわかる少佐に嘆願している妻が痛々しい。母は11歳の博子と9歳の湛子（ヒロコ）を左右に抱えて悄然と立っている。言葉をかけてやるすべもない。

わたしはジープの中へ押し込められた。発車間際に振り向くと、妻の白い顔が夕闇の中にくっきりと浮いている。これが見納めに

なったことをシベリアの獄中で知った。八年後、獄中に届いた湛子のはがきにはこう記されていた。

「お母さんは遠い空のかなたへ消えてゆきました。早く帰ってきてください…」

昭和31年12月31日、わたしは12年ぶりで大牟田市に住む家族の所へ帰ってきた。母は日焼けした顔や手足に苦労の跡を染み込ませていた。長女は奨学資金で久留米市の大学を卒業し、小学校教員の資格を取得していた。次女は高校に通いながら祖母の屋台店を手伝っている。長男は中学在学中で人々に「坊や」という愛称で親しまれている。同郷の人々の情けが支えになっていた。

やがて41年目の「10月6日」を迎える。秋風に揺らぐコスモスが追憶を誘う。（昭和61年・10・2）

ボーヤチャンは今

私の弟勝矢について、父正夫はその著書で次のようにふり返っていた。

長男勝矢

勝矢に対しても頭の上からないことばかりである。一日も早く実務に就かせて生計の助けをさせようと思い、都立世田谷工業高校を受験させた。同校を卒業後、進学を希望してやまないので、つてを求めて町田市の自宅に近い玉川学園大学へ入れた。一学期もたたないうちに「真剣に学問をする場ではない」と独断で中退した。実務か進学かでわたしたちは口論を繰り返したが、勝矢は進学の決意を固めるばかりであった。

勝矢は工場周辺の清掃アルバイト、臨時販売員や家庭教師などを転々としながら一流大学への受験準備と学資かせぎに専念した。その努力と執念は結実した。上智大学英文学部から修士課程を終え、神奈川の県立高校の英語教諭に収まっている。

勝矢は定年まで、神奈川県県立高校の英語教諭を勤めあげた。

彼の長男は茅ヶ崎市で小学校教諭している。長女は看護師になった。

下川博子のいままで

私は26歳で中学の社会の先生と結婚しました。でも夫・下川忠範は、予期しなかった方向に人生の歩みをすすめていきました。

福教組大牟田支部書記長を皮切りに政党活動と平和運動に全身で取り組みました。

教職を辞し45歳ではじめて福岡県会議員に立候補、これを手はじめに何回も涙をのみました。しかし最高得票数を戴いたのを機に3期議員を務めました。

議員を辞した後は、85歳まで、原水協会長として、平和行進に参加しました。彼は肺気腫で入院したときも有明海の討論集と憲法の本は手放しませんでした。２０１９年１月「89歳」で亡くなりました。

私はあとふたつの宝をもっています。それは長男と長女です。

長男は今、武蔵大学の教授です。

長女は、会議通訳者（同時通訳）として外国で活躍しています。ふたりとも頻繁にリモートと電話で連絡してくれ、私を気遣って

くれています。

私は58歳までの小学校教諭（退職時大正小学校）の生活を終えおはなし会や民医連米の山病院友の会などの活動にとりくみました。今いくつもの病を得て歩行困難となり「支援Ⅱ」で介護を受けています。

85年のながい何月には、たくさん起伏がありましたが、「我が人生に悔いなし」とひとりつぶやいています。

ここに至るまで、与論の人たちや、今まで出会った方々の暖かい支えがあったことに、心より感謝します。

トウト　ガナシ

若き日の上野應介翁

上野家の人々　・　前列左から３人目東千代、上野應介、タメ、クニ、
後列左から東元義、東喜久里、上野可高孝、

今回、下川博子さんに投稿をお願いし、快く引き受け下さいましたことを厚く御礼申し上げます。

今回博子さんの父親、上野正夫氏が自費出版された「与論島に生まれて」―わが島育ち人生―を読ませていただき、ソ連での抑留の話は大へんな時期を過ごされ、精神力で生き抜いた話が伝わります。

与論会だよりに全部掲載できないが、与論会にかかわるところは記載できるように読み直しております。

著書によると、大正二年、上野應介氏は四山（よつやま）船積与論人人夫総監督に任ぜられた。東元良とともに島民の統率者として団結と生活の中心になり、与論島出身者に慈父のように敬慕されていた。

大正5年5月25日、大牟田市三池町で病没した。享年六十三歳。遺骨は沖縄本島北端の辺戸岬を南方に望む与論島の前口半田という丘にある上野家累代の墓に葬られている。

彼は明治中・後期に与論島に起死回生の道を開き、島外発展の端緒を作った恩人であり、先駆者である。

上野家系譜

八　代　上野八千代氏
九　代　上野　納富氏
十　代　上野　富應氏
十一代　上野　應介氏
十二代　上野　可孝氏
十三代　上野　正夫氏
十四代　上野　勝矢氏（下川博子さんの弟）

長女博子の夫・下川忠範 福岡県議選で再選される
（大牟田の長女宅にて　後列右から博子、忠範）

病魔と闘い夢諦めず
病気と闘う子供たちへ――

東京オリンピックの聖火が福岡県に入った11日、同県大牟田市出身の大学2年生、森健心（けんしん）さん（19）は幼い頃、自身を襲った病魔に打ち勝って目標に向かう大きな姿を披露した。

3歳の時に柔道を始め、2019年に全国高校総合体育大会で優勝した。現在、90キロ級で活躍する姿からは想像でないが、4歳の時に悪性リンパ腫を患って入院。一時は柔道を諦めなければならなかった。

小児病棟には同じ年ごろの2人がいた。森さんと3人でふざけ合って寂しい幼心を埋め合った。しかし、2人は帰らぬ人に。将来の夢もあっただろうに―。

2人の分まで柔道に打ち込んできた。今の目標は24年のパリ五輪金メダルだ。

「目標に向かって頑張ることが人生の財産になる」。子供たちにエールを送った。

5月12日　毎日新聞

平和台陸上競技場で行われた「点火式」で聖火をつないだ森健心さん

口之津移住百年祭記念誌

与論島から口之津へ そして三池へ

口之津港

まず五十年の歩みは、同郷人が集団移住して、内地上陸の第一歩を印した口之津の簡単な紹介からはじめたい。（以下口之津町の資料による）

口之津町の地は、南高来一円とともに、古くは高来の国の南端で、日本書記、肥前風土記、延喜式等にも見え、第十二代景行天皇が熊襲征伐の途次、上陸されたとの伝説があるように古代から人類文化が開けていたものと思われる。

この地は秀峰雲仙岳の南麓で、温和な気候と、波静かな有明海出入口と、渦潮の荒い早崎海峡を抱するところに、天然の良港があるので、古く平安時代から阿ノ津（三重）、那ノ津（博多）、坊ノ津（鹿児島）の三つの津とともに有名な菖蒲ヶ浦として知られていた。

しかし当時は小さな農、山、漁村であったと思われるが、後有馬氏の所領するところになり、その末期イスパニヤ人のキリシタン布教のため来航してから、寺院学校の建設があり、西欧文化の輸入港としてとみに栄え、短期間ではあったが、本邦でただ一ケ所西欧文化の花が咲いていた。

この殷盛の時機は短かく、まもなく島原の乱のため一切消滅し、再び一寒村に戻り、其の後、移住部落の発達が今日の基礎をなしている。（以下略）

次に明治の代になってからの口之津港の移り変わりを年表的に見てみよう。

明治十三年五月、口之津灯台が設置された。その構造は六角不動白色光で、水面から灯火まで三八米、十浬に達する光を放ち、入港船舶を始め有明湾内における航海の安全を得るようになった。

明治二十二年三井炭鉱が、三池鉱山局から三井の会社に払下になってから一時口之津には、外船の入港が減少して一頓挫を見るに至った。

明治二十二年七月、口之津港は特別輸出港に指定され、三井物産会社は更に当地に支店を設け、三池の石炭は全部口之津港から輸出されるようになったので、再び回復して内外国船舶の出入は以前に倍加した。

殊に日清戦争前後には急激な発達をなしそれから二十年間は殆んど不況を知らない状況であった。

明治二十八年四月、口之津港船舶検疫所を、東大泊交親館に置かれ、警察分署長は検疫所長を兼務し、別に医官及び通訳を配置して始めて海港検疫所を開始した。

明治二十九年十月、口之津港は外国貿易港として十港のうちに指定され、これまでのように輸出のみでなく、輸入も許可されたので、第二の伸長を見るようになった。

こうして石炭の輸出はますます増加し、貯炭場が不足するようになったので、本田次郎氏の所有である大屋新田の沿岸潮入地一万三千坪を買入れ、埋立に着手し同三十二年に竣工貯炭場の拡張が出来た。

明治三十二年海港検疫法の発布があって、長崎海港検疫所の出張所となり、四月草刈源四郎警察分署長の兼任が解かれ、瀬高の地に新築移転し専任者の配置があった。

明治三十四年二月福岡県若松港にあった海務署が口之津に移された。そのため船舶検査を受けるために当港に出入りする船舶はますます増加するようになった。（以下略）

次回へつづく